

## ひろげよう うちどくの輪 ～佐賀うちどくフェスティバルin多久～

家庭読書（うちどく）の普及を目的に「うちどくフェスティバル」（佐賀うちどくネットワーク主催）が12月13日、中央公民館で開催され、県内小中学校関係者・保護者ら約150人が参加しました。

オープニングでは、佐賀うちどくネットワーク事務局による家読テーマソング「こころつないで～read and talk～」の歌と絵本の朗読があり、会場の空気を家読の世界へと誘いました。

宮城県女川町生涯学習課の元木幸市さんによる基調講演「被災地の子どもを心を支える本の力」では、東日本大震災後の図書館復興の取り組みから見てきた「心を癒す」、「心をつなぐ」といった本が果たす役割が紹介されました。

実践発表では、中央小図書館と伊万里市松浦町家読推進委員会が「リレー家読」、「町家読フェスタ」、「保育園内文庫」等それぞれの取り組みを発表しました。

本の魅力、読書の価値を改めて感じる温かき愛のある「うちどく」の世界が展開されたフェスティバルとなりました。



▲基調講演を行う元木幸市さん



▲実践発表の様子

## 「税に関する作品」の入賞者を紹介します

多久市租税教育推進協議会、佐賀税務署、佐賀県税務所、全国納税貯蓄組合では、次世代を担う児童・生徒に税の意義や役割について正しく理解し、関心を高めてもらうために「税に関する作品」の募集を行い、平成26年度も「税に関する小学生の絵画・中学生の書写」20点、「中学生の税についての作文」および「税に関する高校生の作文」285点の応募がありました。この中から入賞者を紹介します。

また、入

賞作品は確定申告期間中に、申告会場入口に展示します。



▲小川紗奈さん作品



▲元島唯花さん作品



▲江頭菜紀さん作品

- |              |         |             |             |          |             |            |       |            |             |
|--------------|---------|-------------|-------------|----------|-------------|------------|-------|------------|-------------|
| 小学生の部（絵画）14点 | 佐賀税務署長賞 | 租税教育推進協議会長賞 | 中学生の部（書写）6点 | 佐賀県税務所長賞 | 租税教育推進協議会長賞 | 中学生の作文154点 | 多久市長賞 | 高校生の作文131点 | 租税教育推進協議会長賞 |
| 小川紗奈さん       | 相賀澤さん   | 元島唯花さん      | 江頭菜紀さん      | 刈上 一輝さん  | 眞子史帆里さん     |            |       |            |             |

## 市長コラム

### 温故創新

Message for citizen

### 年またぎ知事選挙と鳥インフルエンザ

市長 横尾俊彦

師走の総選挙に続き、年またぎの知事選挙となり、県内は正月気分の薄い1月でした。知事選挙では、地方自治の尊重と共感できる改革を訴えた山口祥義氏が約4万票差で当選となった。

報道では「農協vs官邸」の言葉が躍り、開票後は「佐賀の乱」とも表現された。しかし県内感覚ではそんなことはなかった。農協改革が争点ではなかったし、得票上位者2人は政策面で与党や官邸と大きく異なるのではなく、山口氏も重要課題は重要として、課題によっては慎重堅実な対応が重要と訴えた。重職者のあり方論、中央に差配される人選や物事決定の妥当論も話題になった。

厳しい時代に賢明で着実な佐賀県政の発展を願う熟慮した県民選択の結果といえよう。生活者視点で県民とともに理念実現をめざす政治姿勢が肝心だとの判断でもある。県政発展には民主的プロセスも重んじ、新たな時代要請に応えるチャレンジが不可欠だ。希望と期待を込めて注視したい。

歴史的な名言「信なくば立たず」の「信」は誠に重要である。信任された重職者には想定外の危機対応も求められる。まさに新知事が直面したのは有田町で発生した県内初の鳥インフルエンザだった。関係機関と連携し7万3千羽の殺処分を封じ込めに成功。今後特段の異常がなければ2月11日に解除となる見込みだ。消防庁担当経験と多くの人の協力が功を奏した成果となった。

ところで1月半ばから県内市内でインフルエンザも流行中。うがい・手洗いを励行して下さい。